

会議録

令和3年8月31日

件名	令和3年度 第2回鹿児島市食育推進委員会	作成課	保健部 保健政策課
日時	令和3年8月(※書面開催)		
場所	—		
出席者	委員17名 (公募委員3名、学識経験者1名、消費者団体等の代表者2名、教育福祉関係団体の代表者4名、保健医療関係団体の代表者3名、農林水産業関係団体の代表者2名、食品関係者2名)		
市出席者	—		
会次第	1 開会 2 議事 議題 第四次かごしま市食育推進計画について		
主な意見等	<p>【第1章 計画の策定にあたって】についての意見</p> <p>(委員)「食を選択する力」の意図が伝わりにくいので、他の言い方に変更してはどうか。</p> <p>(事務局)食育基本法から引用している。</p> <p>(委員)9～10行目に「食品ロス」についても入れるのはどうだろうか。</p> <p>(事務局)在宅時間が増えたことによる食品ロスの発生については、有効なデータが得られていないため、追加しないこととする。</p> <p>※環境省「新型コロナウイルス感染拡大に伴う食品ロス発生状況に関する調査結果」より</p> <p>【第2章 本市の食育に関する現状及び課題】についての意見</p> <p>●(1)食育への関心について</p> <p>(委員)食育への関心については男女差があると思う。特に中学生～18歳未満の男女のデータがあると良いと思う。</p> <p>(事務局)別紙1-1のとおり変更する。</p> <p>●(4)噛むことについて</p> <p>(委員)噛むことは脳の発育・発達、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸にとっても大事だと思うので、「噛む」ことを評価していること、また、今後噛み応えのあるものを進めていくことも良いと思った。ただ、よく噛んで食べているかどうかは判断基準に個人差があるので、答えにくさも感じた。農林水産省では「よく噛む＝時間がかかる」ところから食べる速さの調査をしており、この評価の方が答えやすく感じた。</p> <p>(事務局)評価の方法等は、今後検討していく。</p> <p>●(12)食品ロスについて</p> <p>(委員)「今後は～」以下に、「環境と道徳の両方の立場から食品ロス削減の取組を行う」ということを追加するのはどうだろうか。</p>		

(事務局) 別紙 1-2 のとおり変更する。

【第 4 章 施策の展開】についての意見】

●基本目標 1-基本方針 (2) 口腔・栄養分野における食育の推進

(委員) 栄養バランスの考え方として、乳幼児期、学童・思春期までに主食・主菜・副菜・汁ものを揃えることがその後の食生活に良い影響を与え、また、高齢期は出来上がってしまった食生活・食習慣を良い方向にもっていく程度の指導になるのではないかと考えている。

(事務局) ご意見の内容も踏まえながら、保育所・学校等との連携に努めてまいりたいと考えている。

●基本目標 1-基本方針 (3) 食の環境整備

(委員) 「市民の取組-②消費者」の「食品表示を見る習慣を身に付けましょう」で、実際に役に立ったというような体験談を募集して紹介する等の企画があると良いと思う。

(事務局) 今後の施策の検討にあたり、参考とさせていただく。

●基本目標 2-基本方針 (2) 学校・保育所等における食育の推進

(委員) 未就学児にも目を向けてもらえて、ありがたい。食へ関心を持つ親が、アトピーやアレルギー疾患の増加に伴い増えてきているように感じる。子どもへの食育推進により、鹿児島市は安心安全な食を進めている→若い人の増加→雇用が増える、というように良い循環のきっかけになると考える。若い人への食育推進で、発育・発達障害の減少、生活習慣の減少、健康寿命の延長、健康維持、医療費削減につながると思う。

(事務局) ご意見として承る。

●基本目標 3-基本方針 (1) 地産地消及び農林漁業体験活動の推進

(委員) 「基本施策①地産地消に関する取組」の「ウ. 魚食普及を図るために、市場で流通する水産物を学校に提供します」とあるが、どのように提供することなのか。

(事務局) 市内・県内の児童を対象に、直接見て触れて食べることで魚食普及を図るために、市場で流通する水産物を学校での料理教室等に提供する事業のことである。

(委員) 「地産地消は、地域で生産された農産物を地域で消費するだけでなく、生産者と消費者を結び付け、「顔が見え、話ができる」関係づくりを行う取組にもなります。」とあるが、農家をサポートできるような取組があると良いと思う。農林水産省は 2050 年までに有機農業を全体の農地の 25% に拡大、化学農薬の使用量を 30% 減らすことを目標としている。

鹿児島市内でもオーガニックの食材やシンプルな昔ながらの製造方法で作られた調味料を使う飲食店や販売店が増えてきている。オーガニックの食材は需要があると言える。全国に後れを取らないためにも逆に、全国に先駆けて農林水産省の目標に近づけるためにも市民を巻き込んで農家の応援、サポートができないか。

(事務局) ご意見については関係部署へお伝えする。

(委員)「基本施策②農林漁業体験活動への支援」の「ア. 市立保育園、学校等で野菜作りや収穫などの体験活動に取り組みます。」について、次の学年に種を託すようなことはできないのか。種をまき芽が出て育ち、花が実になって食べる、で終わるのではなく、土を育て食べなかった実が朽ちて種になり、そこから芽が出ることを繰り返すと「持続可能な環境」をより学べると思う。また、地域別に育てる野菜を決めて採れた野菜や種を交換したり、情報交換できるとより関心も高まり、鹿児島市独自の取組になるのではないかと思う。

(事務局) ご意見については関係部署へお伝えする。

●基本目標3－基本方針(2) 食文化継承につながる取組の推進

(委員)「市民の取組－学童・思春期」に、食事マナーについての取組も入れてほしい。箸が上手に使えない、食器を持たない子どもが多く、課題だと思います。また、食文化・マナーの指導を給食で行う際に、ステンレス以外の食器や食具を提供できたら良いと思う。

(事務局)「正しい箸の持ち方など、基本的な食事のマナーを身に付けましょう。」を追加する。また、ステンレス以外の食器や食具についてのご意見については、関係部署へお伝えする。

(委員)「基本施策①郷土料理継承に関する取組」に「イ. 郷土料理に関するリーフレットを作成し、普及・啓発を行います。」とあるが、実際にリーフレットを活用している人の数をカウントできると良いのではないか。

(事務局)リーフレットを配布した枚数により活用状況を把握している。多くの市民にリーフレットを活用していただくために、各種イベント等での配布やホームページへの掲載によって広報活動に努めているところである。

●基本目標3－基本方針(3) 環境に配慮した食育の推進

(委員)基本施策の中に、道徳的な視点(もったいない精神)の項目を入れるのはどうだろうか。

(事務局)「もったいない」の精神については、食品ロスの取組全てに関わっていることから、基本方針(3)の概要を別紙1-3のとおり変更する。

【第5章 計画の数値目標】についての意見】

(委員)「学校給食への地場産物活用率」は「重量ベース」か「食材数ベース」か記入した方が良いのではないか。

(事務局)「重量ベース」と記載する。

(委員)「学校給食への地場産物活用率」について、活用調査の時期(6月・11月)は野菜等の端境期になることが多いので、活用率を上げるためには、計画的な収穫と献立での活用をリンクすると良いと思う。活用率を上げたいという希望はあるが、目標値として挙げられている70%が最適だと思う。

(事務局) ご意見として承る。

【その他の意見】

(委員)20～30歳代の人の行動を変容できるような手立てが必要だと感じた。

義務教育後からシニア以前の年代の若い人が気軽に参加できる計画はないのか。(食に関心がない人にも参加してもらいたい)

(事務局) 若い世代向けの料理教室の実施や、要望があった企業への出張講座等を実施し、働きかけを行っているところである。

今後も引き続き若い世代への働きかけを行っていきたいと考えている。

(委員) ライフステージに合わせた食育の推進のために、「幼児(幼・保)→学童(小・中・高)→事業所等→介護施設」など食育に関わる人材の連携が深まるとより充実した計画になると考える。

(事務局) ご意見の内容も踏まえながら、関係機関・団体等と連携して食育推進に努めてまいりたいと考えている。

(委員) 学校給食衛生管理基準—第3—1—(2)—③—二「有害若しくは不必要な着色料、保存料、漂白剤、発色剤、その他の食品添加物が添加された食品、又は内容表示、消費期限及び賞味期限並びに製造業者、販売業者等の名称及び所在地、使用原材料及び保存方法が明らかでない食品については使用しないこと。」とある。これは子どもたちを守るために大事な事なので標記されていると思うし、だからこそ学校給食は手作りなのだと感動した。ただ、幼稚園のおやつは添加物が多く、手作りではない。鹿児島市の保育園、幼稚園のおやつに対して評価やアプローチができないか。

(事務局) ご意見については関係部署へお伝えする。

(委員) 前回会議で、家に閉じこもりがちやサポートが得られない妊婦や産後のお母さんたちへの取組があれば良いと提言した。産後のお母さんたちの話を聞いたところ、配偶者が料理を作れず、家族や産後の自分のために食事を用意しないといけないということを聞き、心身ともに辛くなった。休息を優先させて栄養が得られておらず、体調を崩している人が多いようである。産前産後の母親だけでなく家族への食のサポートが必要と感じたが、何かサポートができないか。

(事務局) ご意見については関係部署へお伝えする。